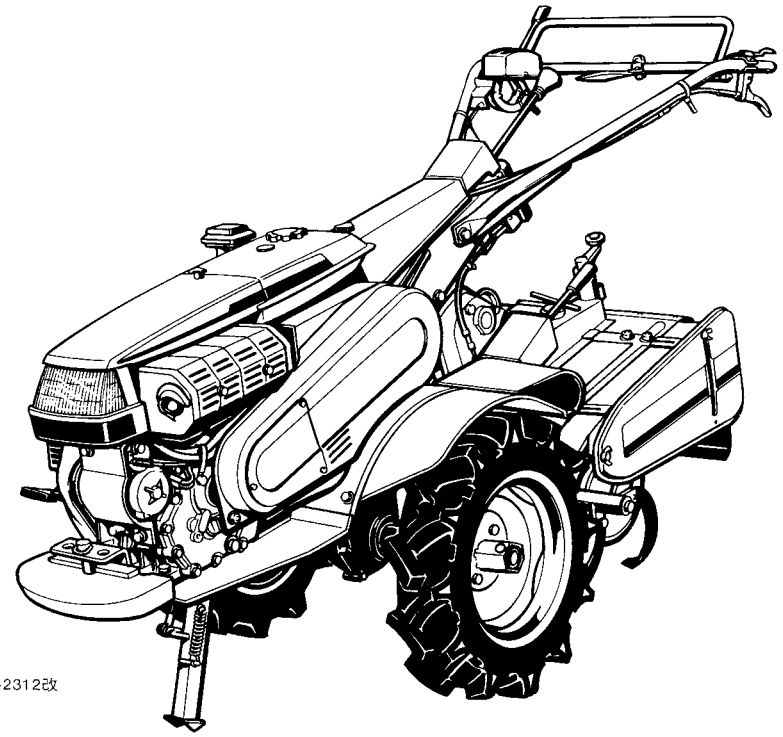
クボタテーラー

取扱説明書

TD520(R)
TD620(R)
TK620(R)



J-2312改

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ディーゼル燃料給油

ギヤーオイル給油

燃料ゲージ **“下限”**

燃料ゲージ **“上限”**

専門用語の説明

PTO ・・・・・・動力取出軸

フルカット ・・・残耕処理機構（ロータリ）

デコンプ・・・・減圧装置

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

62871-6621-1

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

目 次

⚠安全に作業するために …… ⚠-1

サービスと保証について …… 1

小型特殊自動車としての取扱い …… 2

もうおぼえられましたか？ ●テーラー各部の名称と装置の取扱い

テーラー各部の名称と装置の取扱い…… 4

もうおぼえられましたか？ ●ロータリ各部の名称と装置の取扱い

ロータリ各部の名称と装置の取扱い…… 6

作業前にこれだけチェック ●作業前の点検について

作業前の点検について…… 8

このように運転します ●上手な運転のしかた

ならし運転(最初の10時間程度使用まで)……10
エンジンの始動のしかた……10
停止のしかた……12
ロータリの着脱のしかた……12
うね立機の調節……13
後二輪の取付け方……13

こんなときどうする？ ●簡単な手入れと処置

エンジンオイルの交換……14
エアークリーナエレメントの清掃……14
燃料フィルタの清掃……14
オイルクーラの清掃……15
ミッションオイルの交換……15
主クラッチワイヤの調節……15
新しいベルトに交換する場合……16
駐車ブレーキの調節……16
操向クラッチの調節……16
タイヤ空気圧……16
バッテリ……17
電気配線及びヒューズ……18
ゴムホースの交換……18
ロータリケースのオイル交換……18
副チェーンケースのグリース補充……19
耕うん軸へのグリース塗布……19
バックけん制装置の調節……19
耕うん爪の取付け方……20

長い間使わないときは？ ●長期格納時の手入れ

使用後の手入れ……21
保管……21

付 記

オプション部品……22
主要諸元……23
走行速度一覧表……23
爪軸回転速度・耕うんピッチ一覧表……24
標準付属品……24
主な消耗部品一覧表……24

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

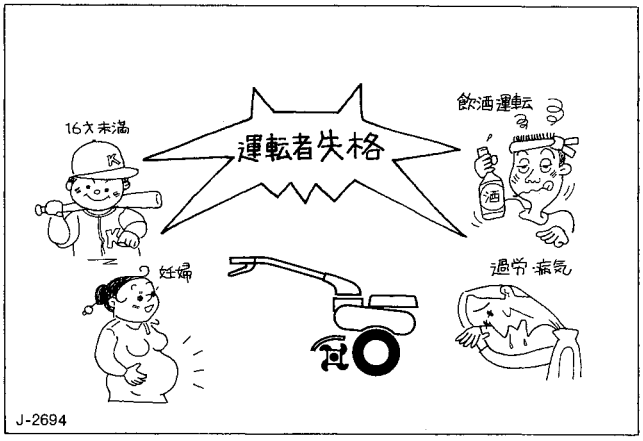
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．運転する前に

機械の運転操作，特に主クラッチ**“切”**はすばやくできるよう，よく練習し，充分になれてから作業してください。

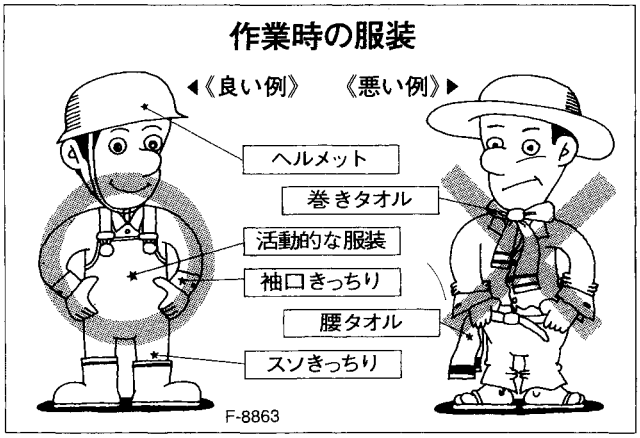
次の項目に該当する場合は機械を使用しないでください。

＊本書及びラベルの内容が理解できない人
＊視力不足等のため表示内容が読めない人
＊飲酒時や体調が悪い時また妊娠中の人
＊16才未満の人
＊ハンドルを操縦する体力に自信のない方



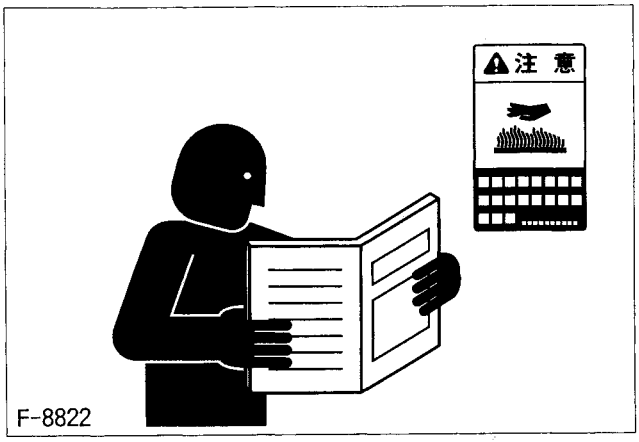
■使用する人の服装は

＊回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になる，だぶついた服，腰タオル等はやめてください。
＊ヘルメット，安全靴，保護メガネや手袋などを必要により着用してください。



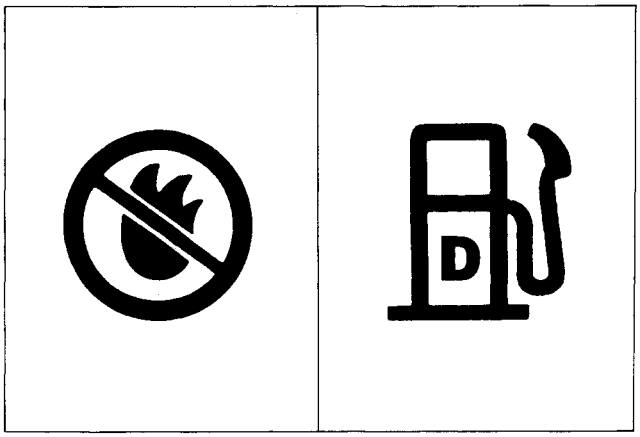
■他人に貸すときは

事前に運転のしかたを教え，**“取扱説明書”**を必ず読んでもらってください。



■給油，注油するとき【火気厳禁】

燃料の給油，補給は必ずエンジンを停止しこぼれた燃料はふきとり，煙草を吸ったり火気をちかづけないでください。エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災の恐れがあるので給油・補給はしないでください。

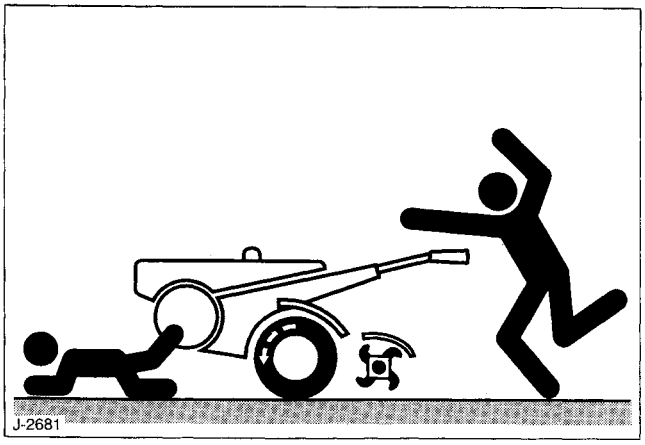


⚠ 安全に作業するために

2．始動するとき

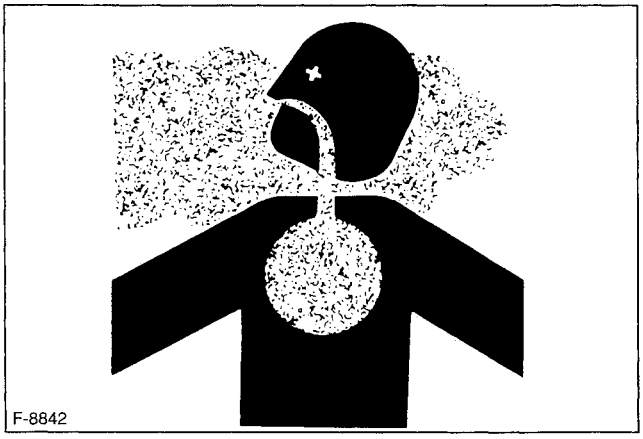
■エンジンをまわすとき

＊必ず本機，ロータリ（作業機）の主クラッチレバーを**“切り”**変速レバーは**“中立”**にして，付近に人（特に子供）をちかづけないでください。もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になる恐れがあります。



■排気ガスに注意

排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがある換気の悪い所（ハウス，車庫等）では使用しないでください。

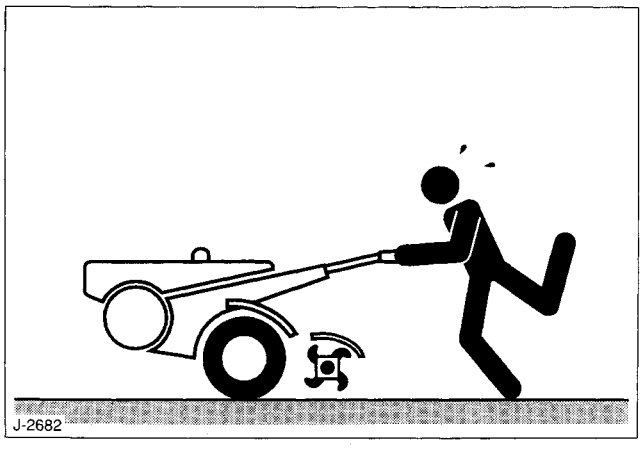


3．移動，作業するとき

■発進するとき

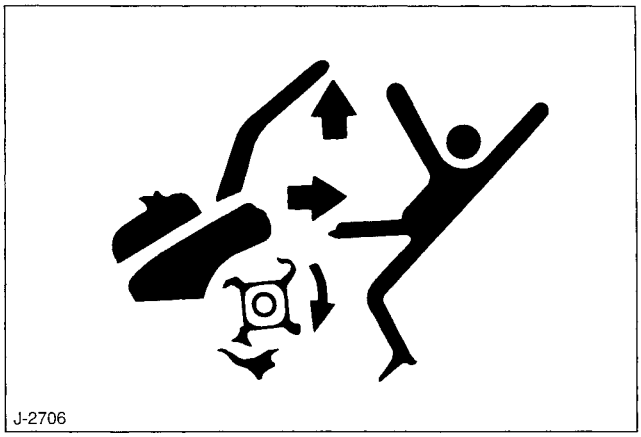
車速の最低速で主クラッチレバーの**“入”**はゆっくり，**“切”**は素早くの操作を習熟した上で使用してください。

小走りになるようなスピードを出したり，急発進，急旋回はしないでください。



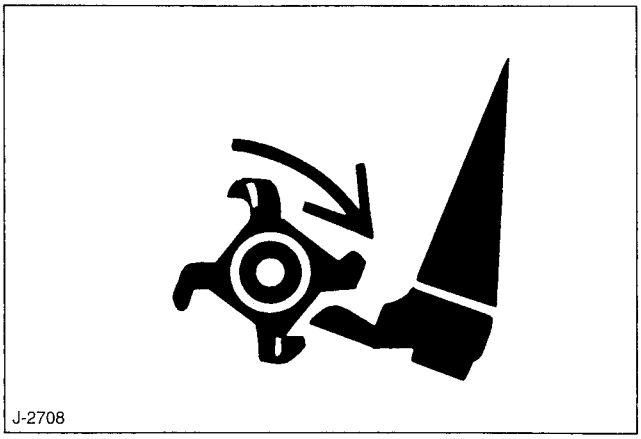
■ロータ装着時後進は禁止

ハンドルが跳ね上がり回転する爪に巻き込まれる恐れがあるので**“後進”**に変速しないでください。



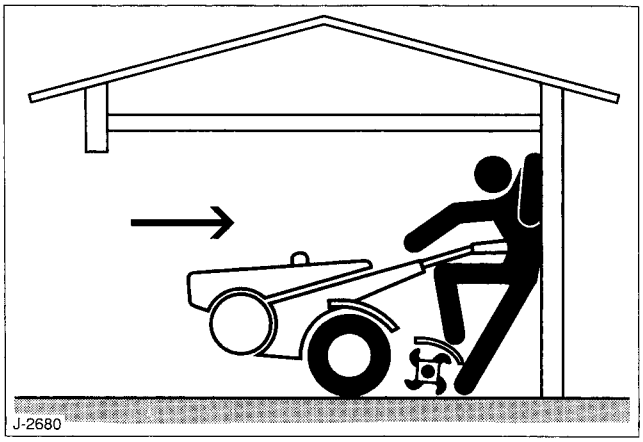
■移動するとき

移動の際は，必ずロータリの回転を止めてください。



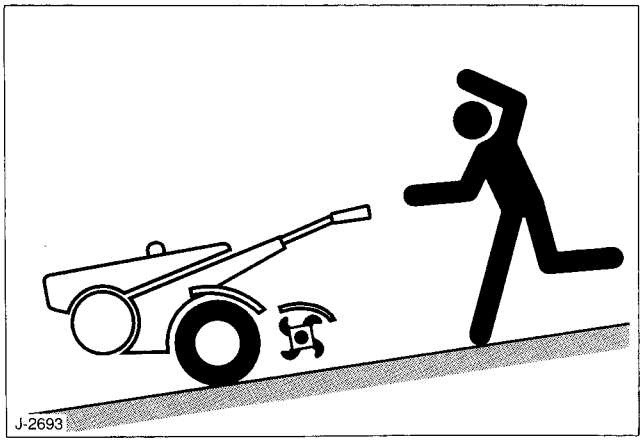
■ハウス，車庫等での移動

後方の壁，支柱，天井など障害物にはさまれる恐れがありますので遅い車速で後進してください。

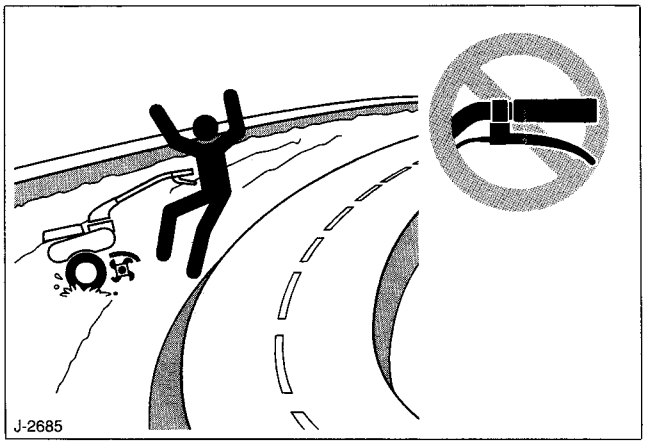


■坂道を移動するとき

坂道，ほ場の出入り，畦の乗り越え等の途中で主クラッチを**“切”**ったり，変速を**“中立”**にすると，機体がおもわぬ方向に進み危険です。また，坂道や凹凸，カーブの多い路上で高速運転すると，転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。



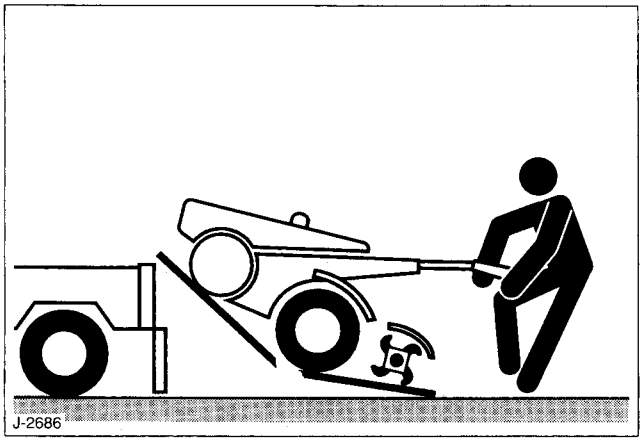
坂道で操向クラッチを操作すると，思わぬ方向に曲がり転倒の恐れがありますので，必ずハンドル操作で方向転換してください。



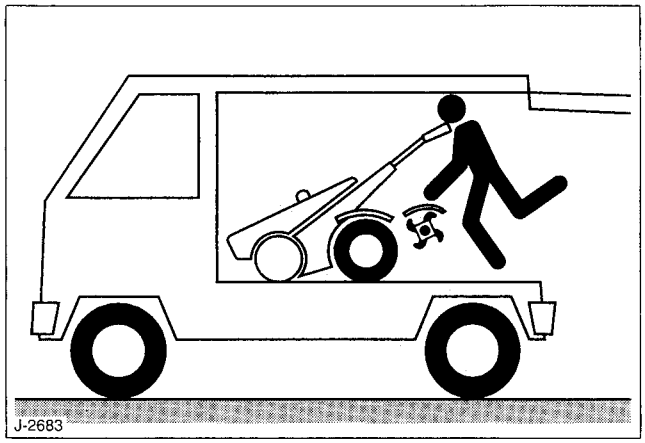
■積み・降ろしするとき

アユミ板は丈夫ですべり止めのあるものを使用し，確実に固定してください。

足元に注意し，車速は最低速で，上りは**“前進”**下りは**“後進”**で行い，途中で主クラッチ，操向クラッチを切ったり，変速操作をしないでください。



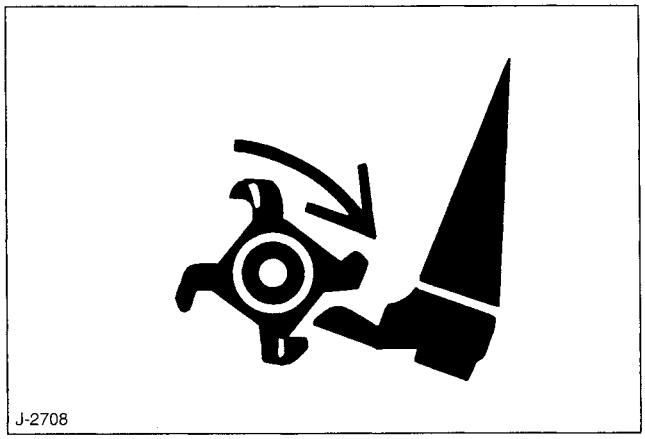
車などで運搬するときは，必ず荷台に天井がない車を使用してください。



⚠ 安全に作業するために

■回転している爪に注意

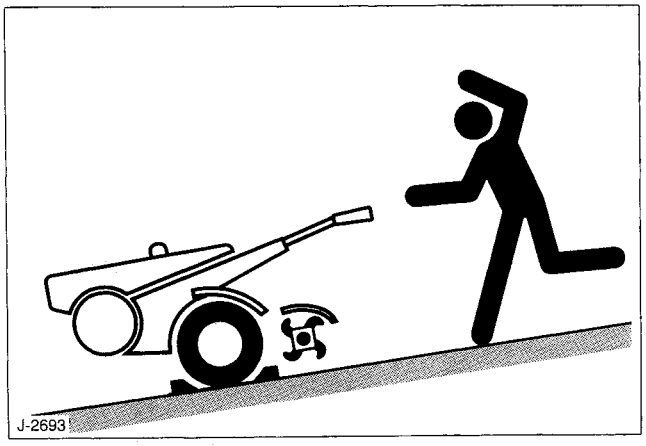
ハンドル部を持ち上げ旋回する時，足下および周囲に充分注意しないと回転する爪に巻き込まれる恐れがあります。



■機体から離れるとき

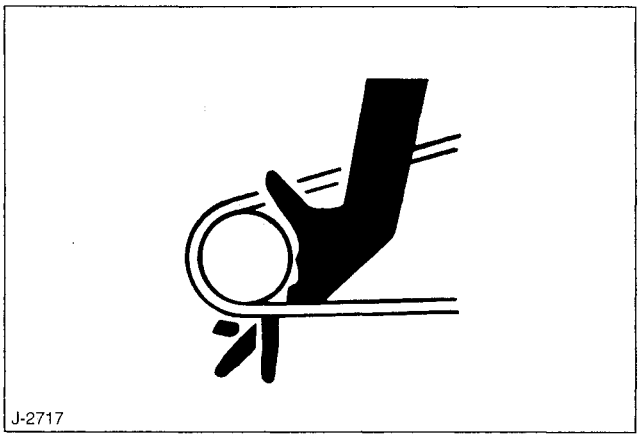
エンジンは必ず停止させ平坦で安定した場所に駐停車します。

やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください。



■PTO軸を使用するとき

回転軸に巻き込まれる恐れがあるのでまわりにカバーや囲いをしてください。使用しない時はカバーを組み付けてください。



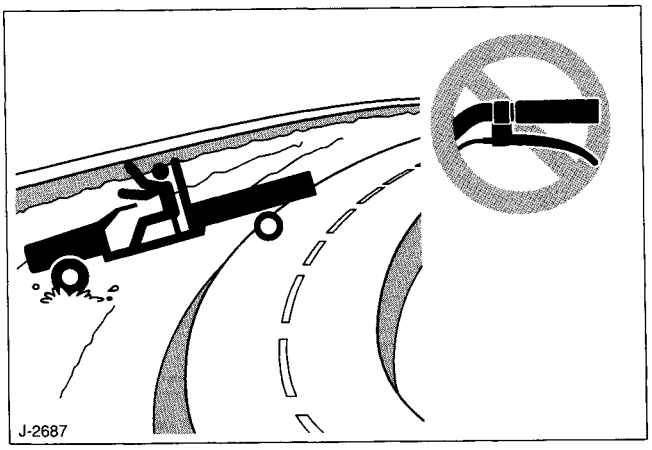
■トレーラ走行するとき

＊ナンバプレートを付け，免許書を携帯し，交通法規を守ってください。

＊トレーラには運転者のほかには乗車させないでください。

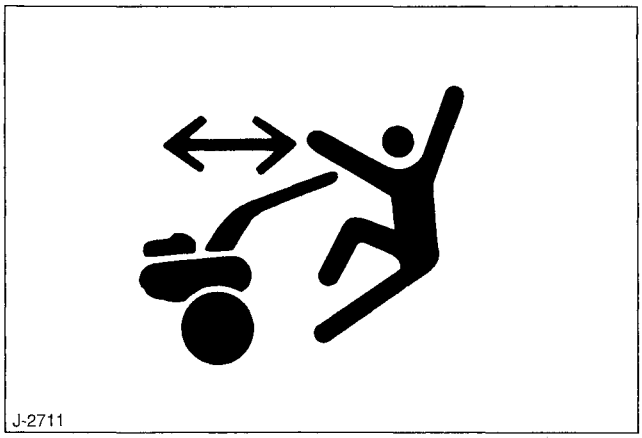
＊見通しの悪い所（交差点，踏切）では一旦停止して，降りて左右を確認してください。

＊トレーラ走行時，操向クラッチを使って旋回すると，思わぬ方向に曲がり転倒のおそれがありますので，必ずハンドル操作で旋回してください。



■耕うん作業時

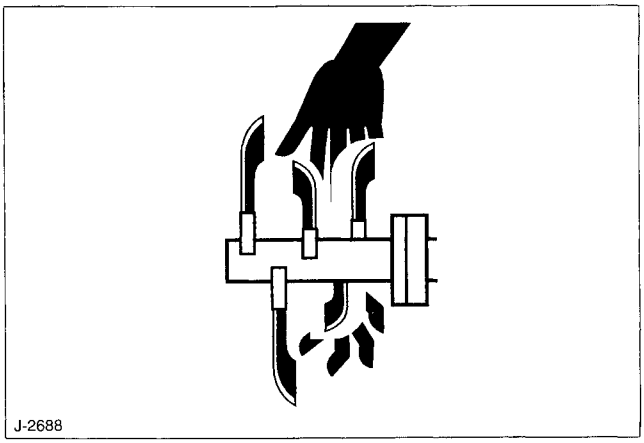
車軸（ロータ），爪軸（ロータリ）作業では機体が思わぬ方向に飛び出し転倒や人身事故の恐れがありますので，主クラッチは素早く切ってください。



4．作業が終わった時

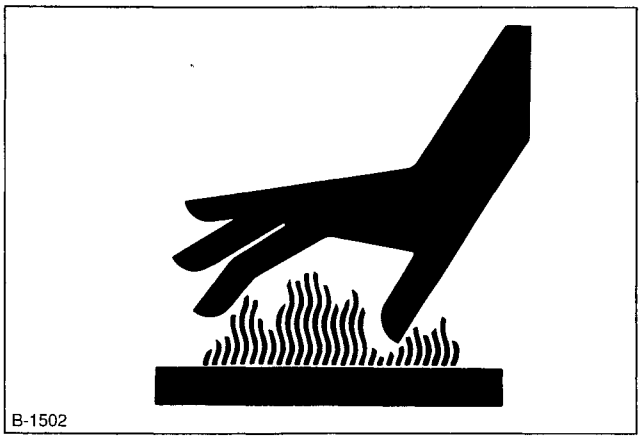
■掃除をするとき

車軸（ロータ）爪軸（ロータリ）等に巻き付いた草，ワラ，泥土等を取り除く時は必ずエンジンを停止してください。


J-2688

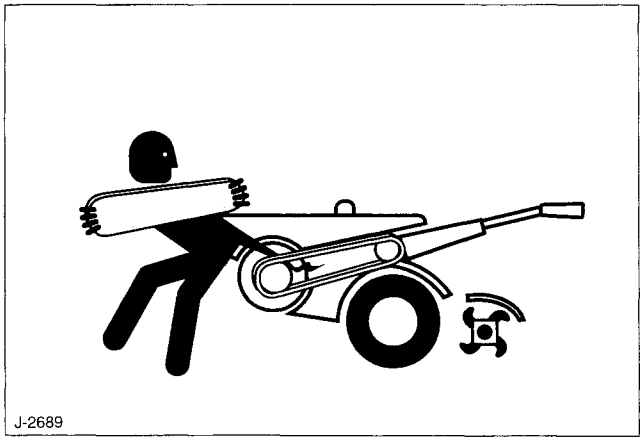
5．点検，整備をするとき

点検，整備，アタッチメントの脱着などは機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め，高温部が冷めてから行ってください。


B-1502

■カバー類は必ずつける

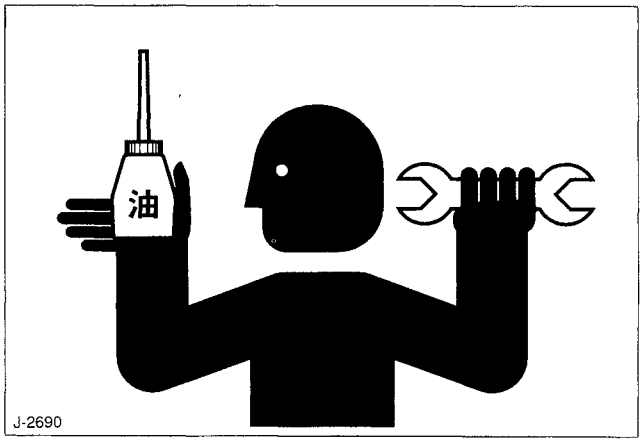
ベルトカバーなどの防護装置を取り外す場合は必ずエンジンを停止して，作業後は取り外したカバー類は元通り組み付けてください。又作業機（ロータリ）を外した時はPTO軸にカバーをつけてください。


J-2689

点検，整備，アタッチメントの脱着などは機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め，高温部が冷めてから行ってください。

■1年毎の定期点検を

機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため1年毎に定期点検，整備を受け特に燃料パイプは2年毎に交換して安全に作業出来るようにしてください。

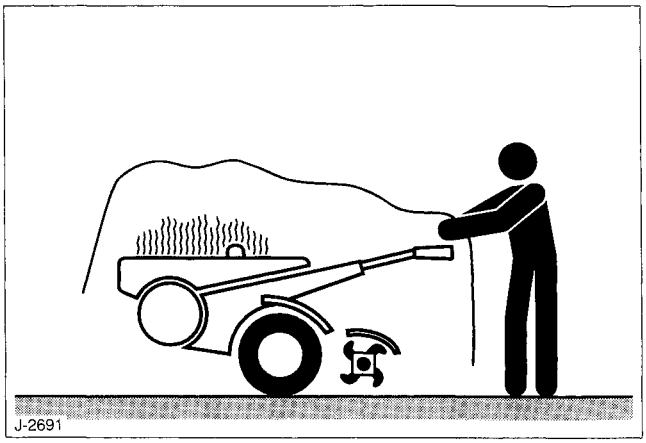


J-2690

⚠ 安全に作業するために

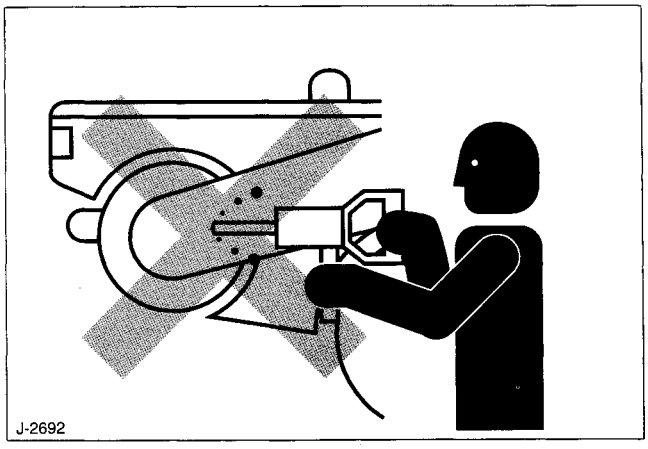
■格納するとき

機体に保管用カバーをかけるときは火災予防のため高温部が冷めてから行ってください。



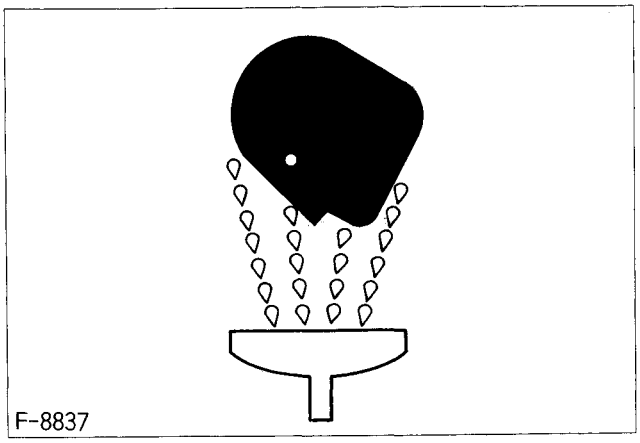
■機械の改造禁止

機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながる恐れがあります。

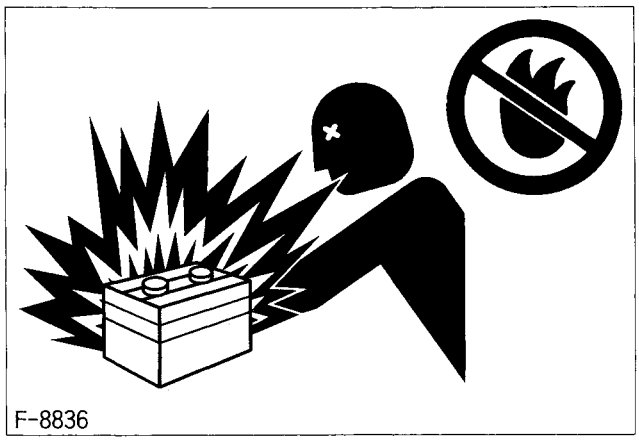


■バッテリ点検するとき

バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。



バッテリは充電中可燃性ガスを発生し爆発の危険性がありますので，タバコをすったり火気を近づけないでください。



6．⚠表示ラベルと貼付位置

① 品番　64071-4822-1

⚠ 注 意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読んで正しい取扱いをし機械の運転操作、特に主クラッチ「切」はすばやくできるよう、よく練習し充分なれてから作業すること。

始動するとき
- ◆主クラッチレバーを「切」、変速レバーを「中立」にすること。
- ◆前後左右に人がいないことを確認すること。

運転するとき
- ◆機械を移動させるとき、小走りになるようなスピードを出したり急発進・急旋回しないこと。
- ◆後進時はハンドルがはね上がるので主クラッチがいつでも切れるようハンドルを下げ、遅い車速で後進し、うしろの障害物に注意すること。
- ◆周囲に人を近づけないこと。

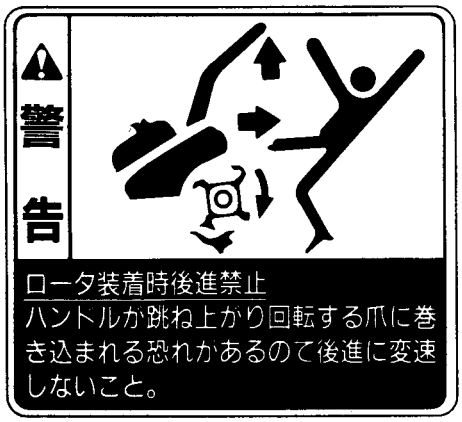
トレーラ走行するとき
- ◆運転者のほかは、乗車させないこと。
- ◆旋回は速度を遅くして、操向クラッチを使用しないで、ハンドル操作でおこなうこと。

点検．整備するとき
- ◆必ずエンジンを止め、高温部が冷えてからおこなうこと。

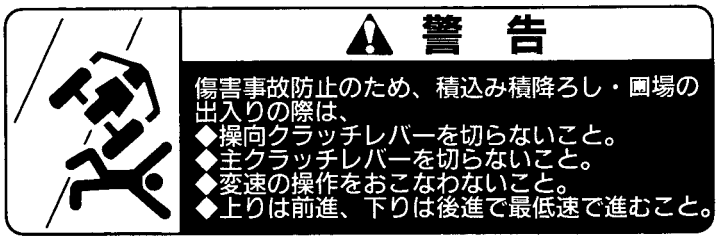
② 品番　60802-4828-1

③ 品番　61592-4812-1

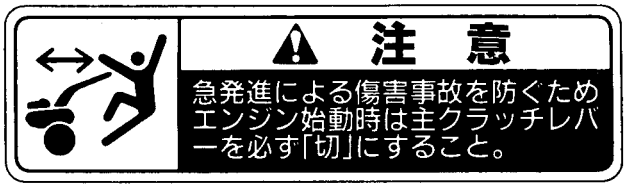
④ 品番　61592-4833-1

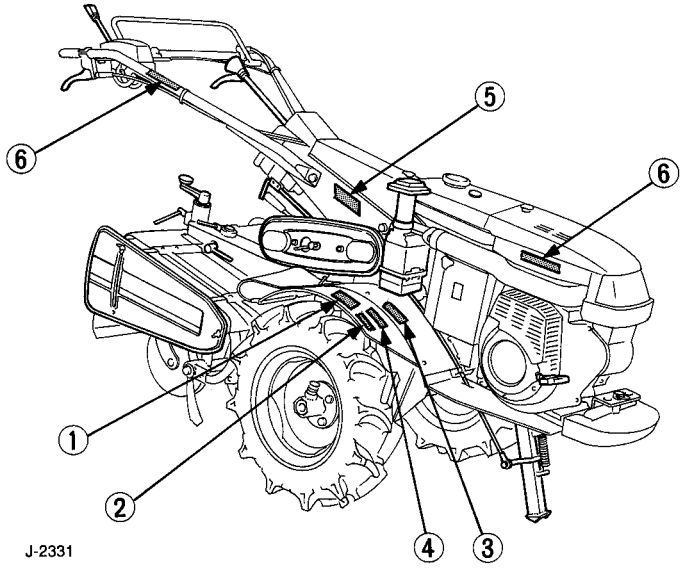


⑤ 品番　64071-4841-1



⑥ 品番　60932-4823-1

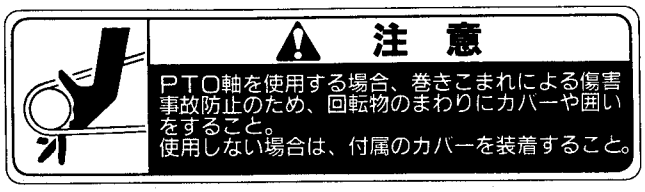




⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

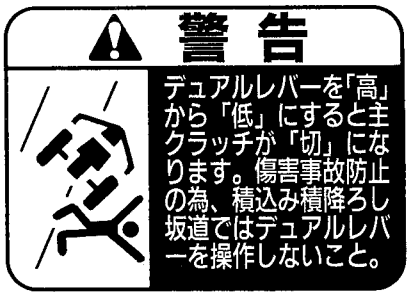
① 品番　64071-4819-1



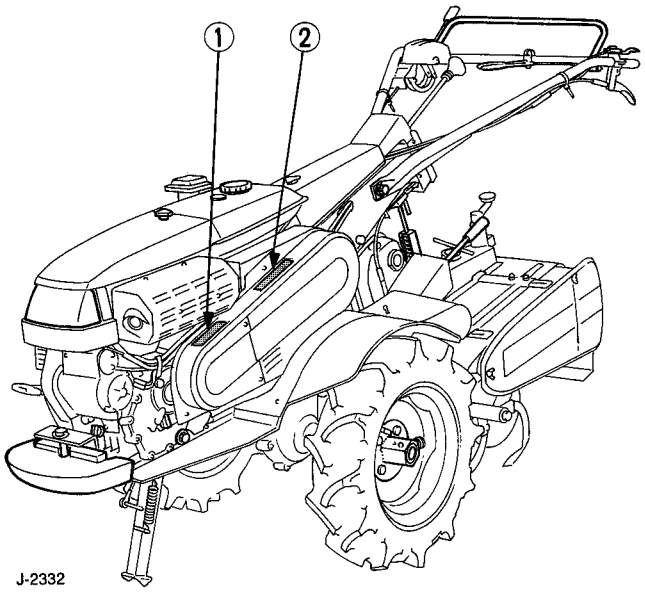
② 品番　60932-4825-1

③ 品番　11151-8741-1

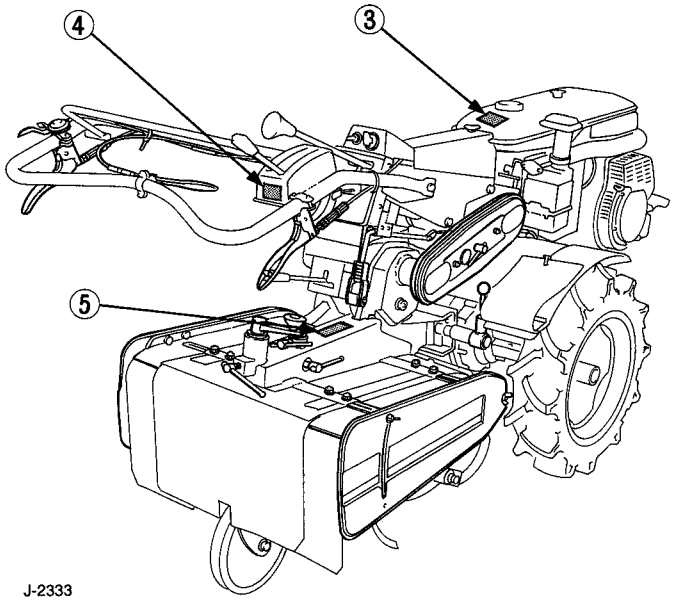
④ 品番　62871-4841-1



⑤ 品番　62451-2813-1



J-2332



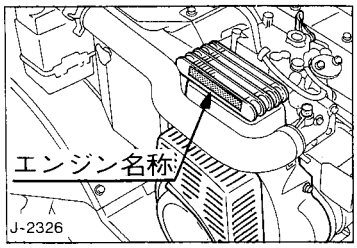
J-2333

7．⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

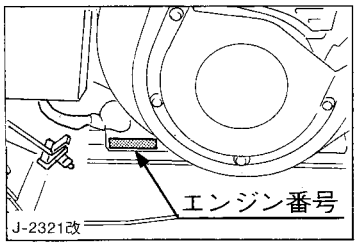


■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先に，それぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

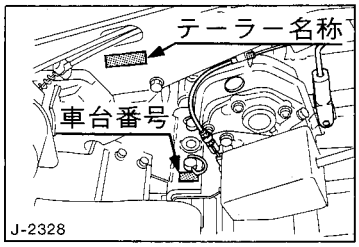
その際　(1)テーラー名称と車台番号
　　(2)エンジン名称とエンジン番号
を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。



警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。



◆安全鑑定適合番号
　クボタT18A（TD520・TD620，TK620）…1402017
◆型式認定番号
　クボタT18型　農1804号

小型特殊自動車としての取扱い

このテーラーにトレーラを取付けて道路を走行すると，道路運送車両法により小型特殊自動車になるので，運輸大臣の型式認定を受けています。

■小型特殊自動車取得の届出とナンバプレートの取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届出，ナンバプレートの交付を受けなければなりません。
（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。）

❶小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて，市町村役所に届出る。
❷届出ると，ナンバプレートが交付されます。
❸ナンバプレートを車体後面の見えやすい位置に取付けてください。

■運転免許

トレーラを取付けて公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転可能な免許が必要です。必ず所持してください。

■自動車保険について

農耕作業用小型特殊自動車は，自動車損害賠償保障法第２条で「自動車」より除外されており，強制保険の対象から除かれています。従って，自動車共済，又は任意の自動車保険に加入されることをお勧めします。

■道路走行時の注意

(1)型式認定時の寸法を越えるトレーラを取付けないでください。
(2)ブレーキのきかないトレーラは使用しないでください。
(3)バックミラー・ホーン・ヘッドランプ・後部反射器が，確実に作用するか点検し，整備してください。
(4)最高速度は15km／時以下です。車輪やプーリを交換して，これ以上の速度が出るようにしないでください。
(5)運転者のほかは便乗させないでください。
(6)トレーラの積載重量と寸法を守りましょう。
(7)動力取出し軸にカバーをしてください。

■小型特殊自動車とは，

カタピラを有する自動車，農耕作業用自動車及び運輸大臣の指定する特殊な構造を有する自動車で，下欄に該当する自動車。

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最　高　速　度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

■小型特殊自動車に必要な構造・保安装置

(1)最小回転半径

トレーラを取付けた状態で，最外側のわだちについて12m以下。

(2)ブレーキ

一系統以上の制動装置が必要です。その制動停止距離は，制動初速度15km毎時未満の最高速度の状態で，５m以内で停止すること。

(3)ヘッドランプ

前方に１個のヘッドランプが必要です。
このテーラーにはヘッドランプが装備されていますので更に装備する必要はありません。

(4)後部反射器

トレーラの後面には，後部反射器を備えなければなりません。
トレーラを使用される場合は，確認の上，装備されていない場合は，購入先でご購入の上，必ず取付けてください。

(5)ホーン

ホーンは必ず備え付けなければなりません。

(6)バックミラー

バックミラーは必ず備え付けなければなりません。

※このテーラーは，ホーン・バックミラーを装備していません。購入先でご購入の上取付けてください。

もうおぼえられましたか？　●テーラー各部の名称と装置の取扱い

主変速レバー

注　意

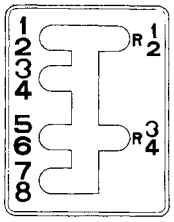
＊変速操作は主クラッチを“切”ってから行なってください。

＊走行中は変速しないこと。

●主・デュアル変速(副変速)レバーの組合せで

前進……8段

後進……4段になります。



J-2318

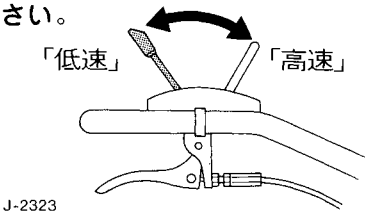
デュアル変速(副変速)レバー

●**“低速”**から**“高速”**には，走行中でも切換えができます。

●**“高速”**から**“低速”**に切換えると主クラッチレバーが**“切”**となり動力の伝達が止まります。

警　告

＊坂の途中では絶対にレバーを操作しないでください。



J-2323

操向クラッチレバー(右)

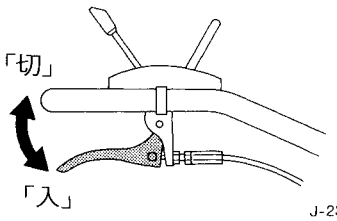
操向クラッチレバー(左)

●左側のレバーを握る……左に旋回します。

●右側のレバーを握る……右に旋回します。

警　告

＊トレーラ作業時や坂道では絶対切らないこと。



J-2323

スタンドレバー

●手前に引いて横に回すとスタンドが引込みます。

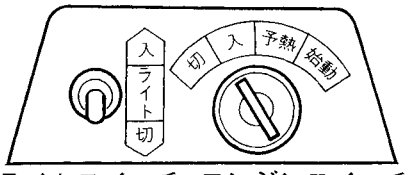
リコイルスタータ

エンジンスイッチ

●エンジンの始動・停止に用います。

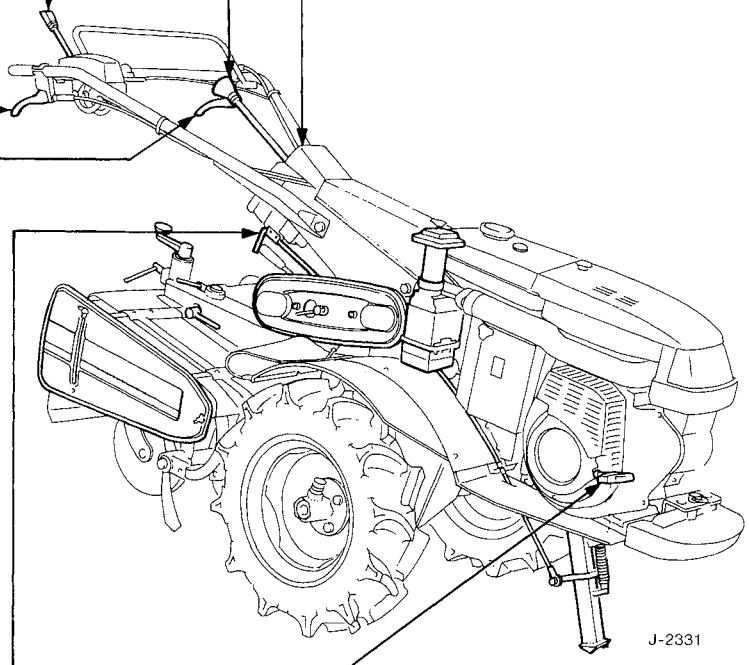
ライトスイッチ

●ライトはキースイッチ**“入”**，ライトスイッチ**“入”**で点灯します。



ライトスイッチ　エンジンスイッチ

J-2318


J-2331

注）TDはループハンドルタイプ
TKは2本ハンドルタイプ

ヘッドライト

12V／20W

ボンネットノブ

●エンジンの点検，デコンプレバー操作時開けます。

燃料ゲージ

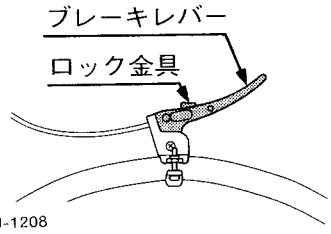
燃料キャップ

●クボタディーゼル重油，又はディーゼル軽油を使用します。

駐車ブレーキ

●レバーを握るとブレーキがききます。更にロック金具を作用させると，レバーがロックされ駐車ブレーキになります。

●ブレーキを解除させるときは，再度レバーを握ります。

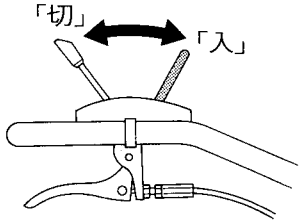


J-1208

主クラッチレバー

注　意

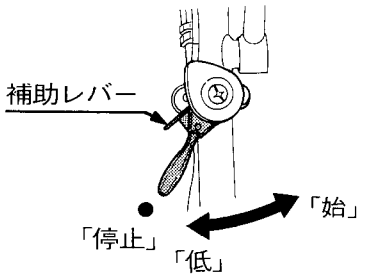
＊主クラッチの接続はゆっくり行なってください。（特にバック時）



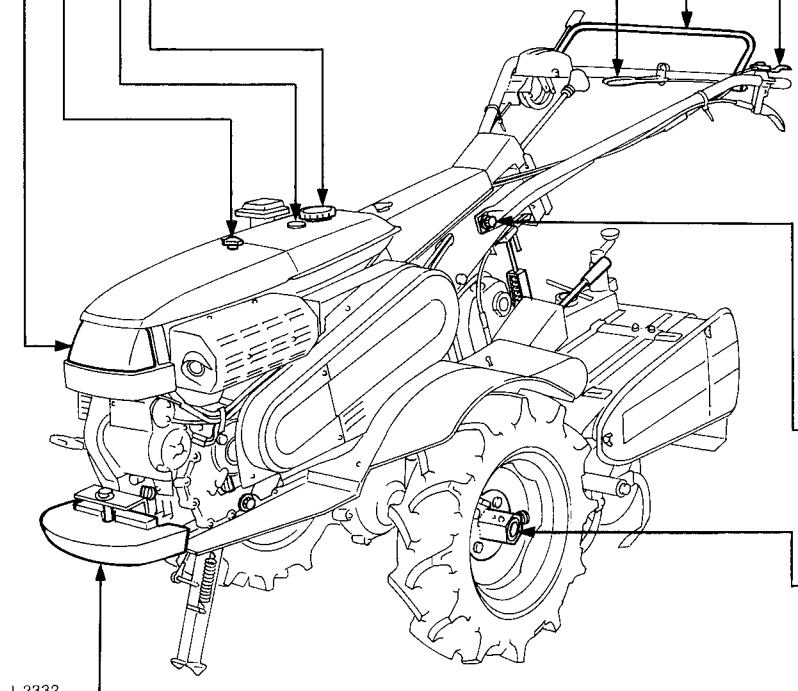
J-2323

アクセルレバー

●エンジンを停止する時は，補助レバーを押えて作動させます。



J-1255



J-2332

ハンドル高さ調整

●ボルト位置を変えることにより，3段階に調整できます。

6角ホイールチューブ

●390㎜～630㎜まで輪距が変えられます。

ウエイト

もうおぼえられましたか？　●ロータリ各部の名称と装置の取扱い

ロータリ固定ハンドル

●ロータリを取外すときゆるめます。（12ページ参照）

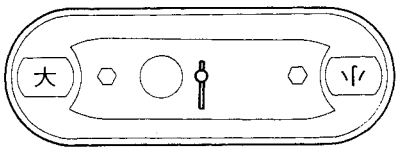
副チェーンケース

●前後の入換えにより，耕うん爪の回転が2段階に変えられます。

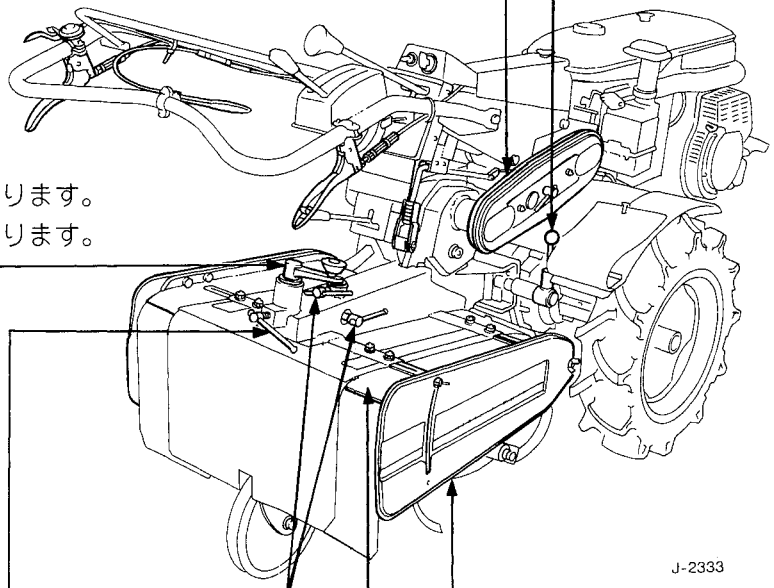
●ラベルの文字が読めるように取付けてください。

小……爪回転が早くなり土塊が小さくなります。

大……爪回転が遅くなり土塊が大きくなります。



J-2316



J-2333

後輪上下ハンドル

●右に回す……耕うんが深くなります。

●左に回す……耕うんが浅くなります。

後輪外管締付けハンドル

●後輪を多量に調節する場合，ハンドルをゆるめ，後輪外管を上下に調節します。

うね立機取付けハンドル

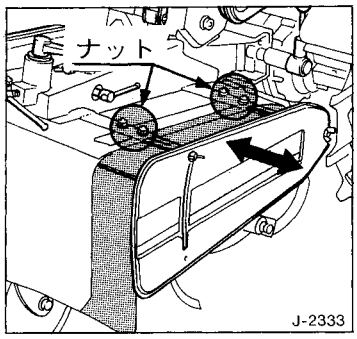
耕うんカバー

●継足し爪軸を取付けるとき，ナットをゆるめカバーを外に引出します。

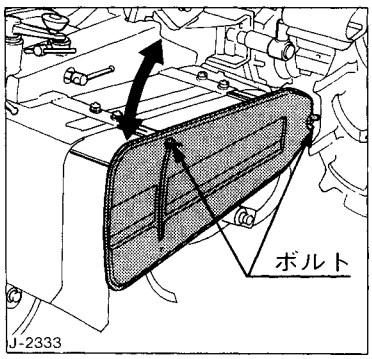
側カバー

●ロータリプラウ，ラセンスキ，うね立て爪などを取付け，耕うん幅を60cm以上にする場合は，側カバーを外して使用してください。

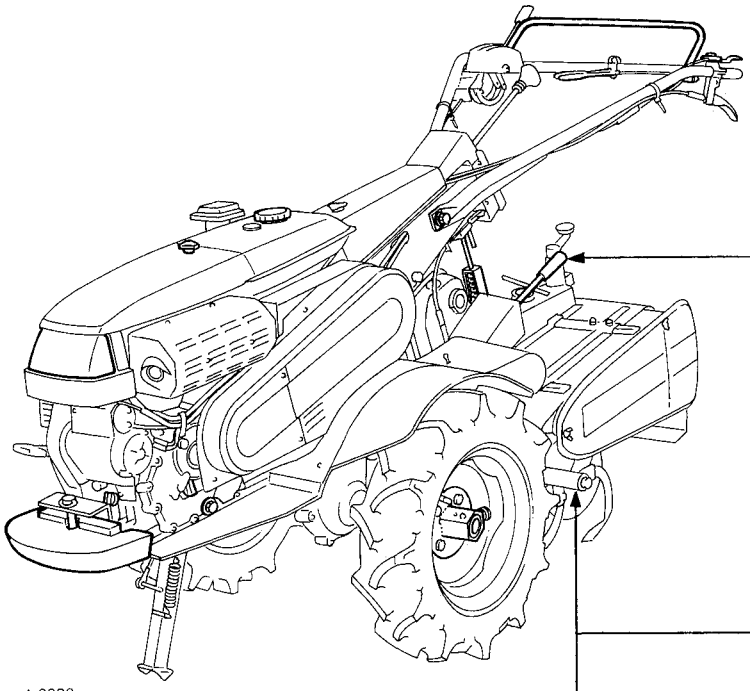
カバーの位置	作業の種類	耕うん爪の向き
上げる	荒起し 畝立て耕うん	外向き
下げる	内盛り耕うん 代かき	内向き



J-2333



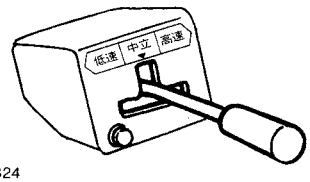
J-2333



J-2332

ロータリ変速レバー

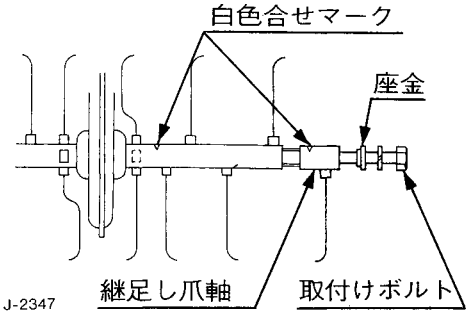
- **“低速”“高速”**の２段変速ができます。
- 副チェーンケースとの組合せで４段変速となります。
- ロータリ変速レバーが**“低速”“高速”**に入っているときはけん制装置の作用により，主変速レバーは**“後進”**に入りません。
- 主変速レバーが**“後進”**に入っているときもロータリ変速レバーは**“低速”“高速”**に入りません。



J-2324

継足し爪軸の取付け方

耕うん幅は標準54cmですが，出荷別標準により60cmの継足し爪軸が付属しているものもあります。取付けは次のように行なってください。



J-2347

耕うん爪の取付け方

（20ページ参照）

作業前にこれだけチェック　●作業前の点検について

警　告

＊給油中はエンジン停止・火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。
＊燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
＊前スタンドを立て機械を安定させて点検してください。
＊点検時はエンジンを停止してください。
＊燃料が規定量以上給油されていないか確認してください。

＊エンジン始動前に……

燃　料

→クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油を補給します。
→タンク容量……約4.5ℓ
→（燃料のエアー抜きは不要です。エアーは自動的に抜けます。）

重　要

＊水やゴミを混入しないようにしてください。

エンジンオイル

→スタンドを立てた状態で，レベルゲージで規定量あるか点検します。
→不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。（ディーゼルエンジン用:D10W-30）
→オイル量……1.3ℓ

エアークリーナ用オイル

→オイルパンの規定線まであるか点検します。
→不足している場合は，エンジンオイルを補充します。

ミッションオイル

→スタンドを立てた状態で，検油口まであるか点検します。
→不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。（M80B又はM90）
→オイル量……6.2ℓ

ロータリケースオイル

→スタンドを立てた状態で，検油口まであるか点検します。
→不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。（M80B又はM90）
→オイル量……2.2ℓ

各ワイヤ

→ワイヤ注油部より，エンジンオイルを注油します。

主クラッチ操向クラッチ

→クラッチの**“入”“切”**が確実に行なえるか点検します。
→不良の場合は調整します。

タイヤ空気圧

→空気が抜けていないか，又，損傷がないか点検します。

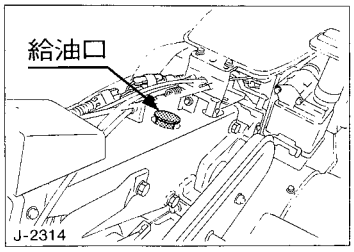
ロータリ

→耕うん爪取付けボルトのゆるみがないか点検します。

その他

→エンジン，ミッション・ロータリケースなどから油もれがないか点検します。
→各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
→各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

ミッションオイル給油口



注油

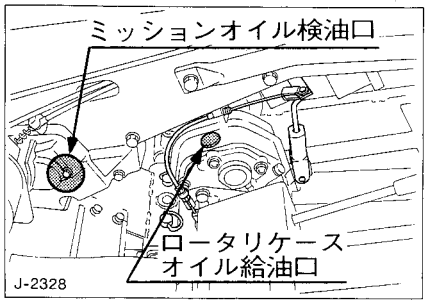
（操向クラッチワイヤ
駐車ブレーキワイヤ）

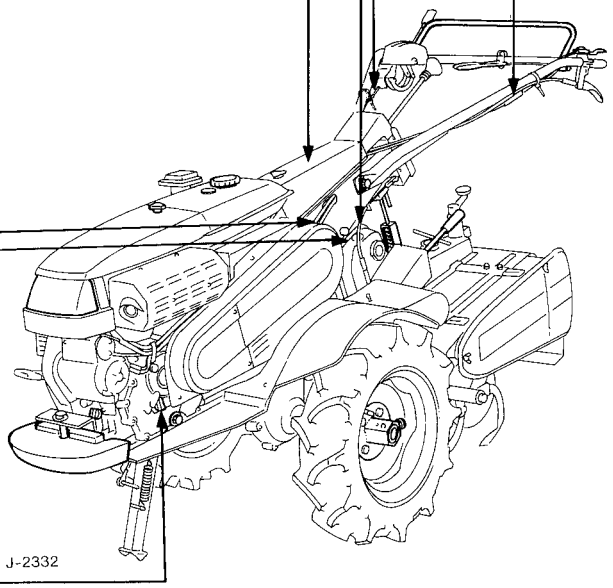
（操向クラッチワイヤ
デュアル変速（副変速）ワイヤ
主クラッチワイヤ）

（バックけん制ワイヤ）

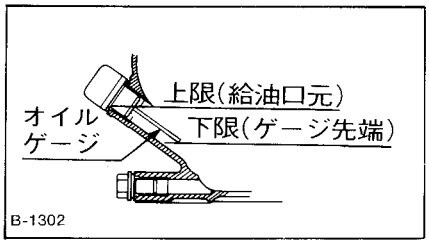
ミッションオイル検油口

ロータリケースオイル給油口



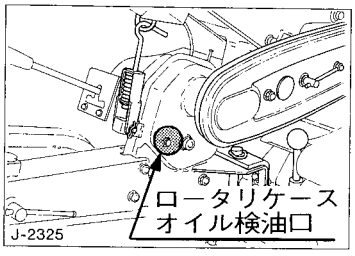


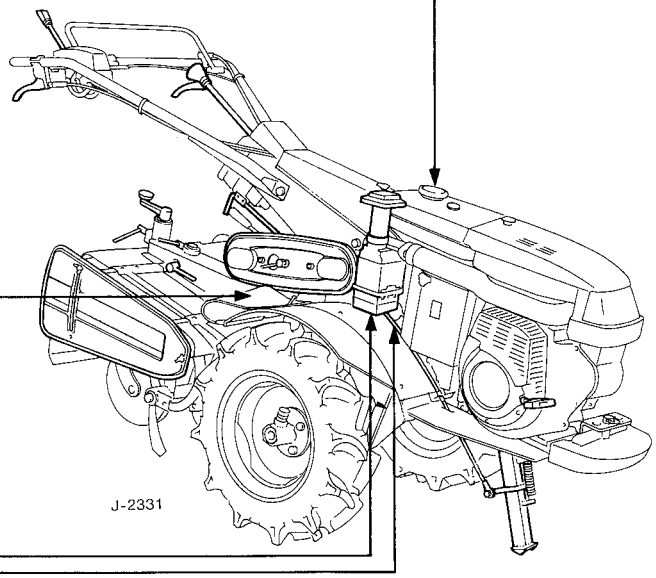
エンジンオイル点検・給油口



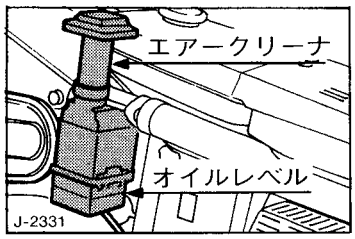
燃料給油口

ロータリケースオイル検油口





エアークリーナ



注油（スタンドワイヤ）

このように運転します　●上手な運転のしかた

ならし運転（最初の10時間）程度使用まで

この期間中は各部になじみをつけるため，エンジンを高速回転させたり，過酷な使用は避け，無理をさせないようにしましょう。

エンジンの始動のしかた

注　意

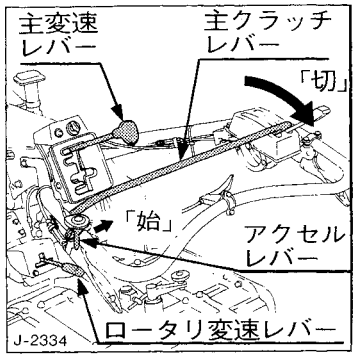
＊エンジンを始動するときは，主クラッチレバーを必ず，“切”にしてください。

＊マフラの排気方向に，燃えやすいものがないか確認してください。

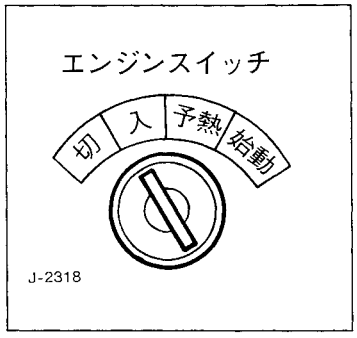
＊エンジン運転中，マフラに手を触れないでください。

セルスタータ始動のとき

❶主クラッチレバーを**“切”**にします。
❷主変速レバー・ロータリ変速レバーを**中立”**にします。
❸アクセルレバーを**“始”**にします。



❹エンジンスイッチにキーを差込み**“入”**の位置にします。このときブザーが鳴ります。
❺エンジンスイッチを**“予熱”**位置に保持し，エンジンを予熱します。（５秒間）
　●エンジンが暖まっているときは不要です。
❻エンジンスイッチを**“始動”**位置まで回し，エンジンを始動します。
❼エンジンが始動したところで，エンジンスイッチから手を離してください。エンジンスイッチは自動的に**“入”**位置に戻ります。
❽エンジンが始動するとブザーは止まります。



重　要

＊エンジンが始動してもブザーが止まらない場合は，エンジンを停止し，エンジンオイルの量及びオイルフィルタの目詰まりを調べてください。

❾２～３分暖機運転を行なってから，作業を始めてください。

重　要

＊10秒間セルモータを回しても始動しない場合は，30秒休んでから再始動してください。
＊バッテリの放電によりエンジンが始動しにくい場合は，デコンプレバーを併用して，始動してください。
＊エンジン始動後，エンジンスイッチは必ず“入”の位置にしておいてください。
＊バッテリが完全に放電し，セルスタータで始動不能になった場合は，リコイルスタータで始動してください。

注　意

＊リコイルスタータの引張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。

＊エンジン始動時は，必ずデコンプレバーを上げてください。
（始動❻項参照）
デコンプレバーを上げずに始動操作すると，始動が困難なばかりでなく，リコイルスタータのロープ切れの原因になります。又，手に衝撃を受け危険です。

＊始動後，異音がしたり，エアークリーナから煙が出たりした場合は，エンジンが逆転している恐れがあり危険ですので，すぐにエンジンを停止してください。

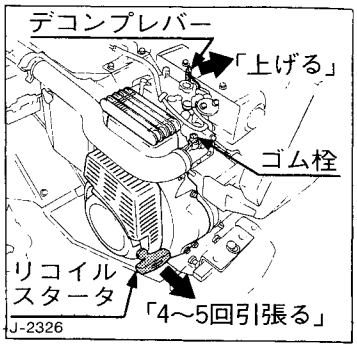
リコイル始動のとき

（バッテリが放電したときはリコイル始動ができます。しかし外気温度が10℃以下では始動困難ですので，バッテリを充電しセル始動してください。）

❶～❸は［セルスタータ始動］と同じ手順で行なってください。

❹噴射音を確認します。

1．デコンプレバーを上げ圧縮を抜いた状態で，片手でリコイルスタータのロープを4～5回引張って，エンジンを空回ししてください。
2．ビリ！ビリ！という燃料噴射音が確認できたら，❺に進みます。
3．もし音がしない場合は，燃料タンクの残量及びアクセルレバー位置を，再確認してください。

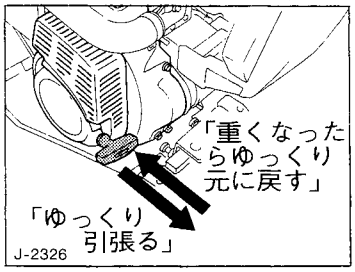


重　要

＊始動を容易にするため外気温度が10℃近くのときは，空回しをする前に吸気フランジ部のゴム栓を抜き，きれいなエンジンオイルを2～3 cc注入してください。
注入量が多すぎると白煙が多量に出るばかりでなく，かえって始動しにくくなります。注入後，必ずゴム栓を元どおり差込んでください。

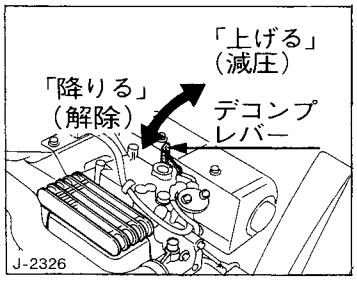
❺エンジンを圧縮位置にします。

1．デコンプレバーから手を離し，リコイルスタータのロープをゆっくり引張ってください。
2．ロープが重くなったら圧縮位置です。引張るのをやめてゆっくり元に戻します。



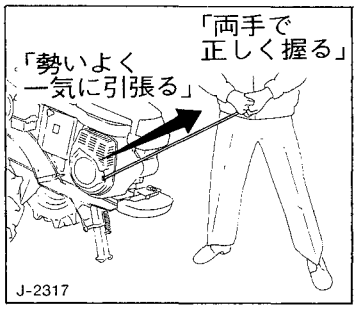
❻デコンプレバーを上げます。（減圧）

1．手を離してもデコンプレバーが降りないことを確認してください。
2．もしデコンプレバーが降りてしまうときは，❺の操作を再度行なってください。
（このデコンプ装置はオートリターン式です。リコイルスタータのロープを引くと自動復帰して，減圧が解除（デコンプが降りる）されます。）



❼エンジンを始動させます。

1．デコンプレバーは上がっていますか。
2．リコイルスタータのハンドルを両手で正しく握ってください。
3．ロープを勢いよく長め（1.2m以上）に引張れば，エンジンが始動します。
勢いよく一気に引張るのが始動を容易にするコツです。
4．エンジンが始動しなかったときは，再度❺から繰返してください。

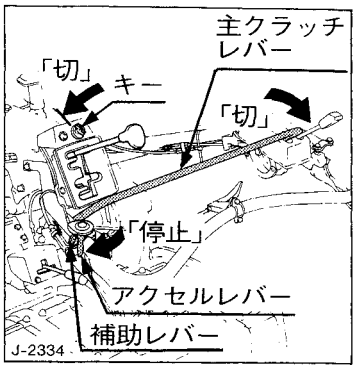


停止のしかた

注 意

＊エンジン停止直後は，マフラが熱くなっていますから，手を触れないようにしてください。

❶主クラッチレバーを**“切”**にします。
❷補助レバーを押えてアクセルレバーを**“停止”**にすると，エンジンが停止します。
❸エンジンスイッチを**“切”**にします。（エンジンスイッチを**“切”**にしないとブザーが鳴り続けます。）



重 要

＊デコンプレバーでのエンジン停止は絶対行なわないでください。

ロータリの着脱のしかた

注 意

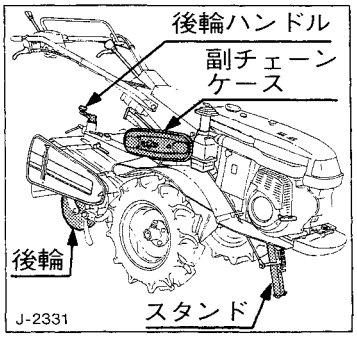
＊取外し・取付けは，平たんな場所で行なってください。

＊ロータリを取外したあとは，伝動軸にグリースを塗布した後，カバーを取付けておいてください。

＊ロータリ装着用のヒッチピンはトレーラ作業に使用しないでください。トレーラ装着用のヒッチピンは付属品箱に入っています。

■ロータリの外し方

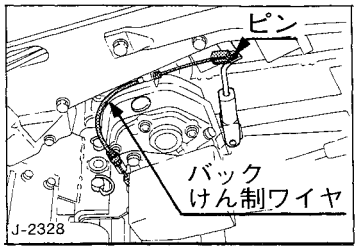
❶スタンドを立て機体を安定させます。
❷耕うん爪を地面に接地させたとき，後輪が5～8㎝浮くように後輪ハンドルで調整します。
❸副チェーンケースを取外します。



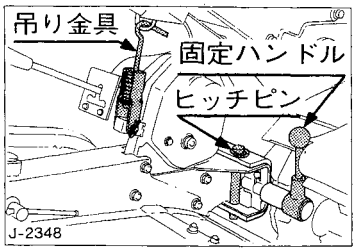
❹バックけん制ワイヤをハンドル側で取外します。

重 要

＊外したピンはワイヤ側に取付けておいてください。



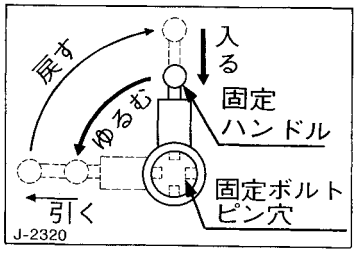
❺固定ハンドルでロータリ固定ボルトをゆるめ（5～6回）ヒッチピンを抜きます。
（固定ハンドルは図のように¼回転します。¼回転すると固定ハンドルを引いて元の位置に戻し，固定ハンドルがピン穴に納まるのを確めて再度ゆるみ方向に回してください。）



❻ハンドルを下げ，吊り金具を外してロータリを後方に引いてください。
（本機を前方に押し出してもよい。）

重 要

＊吊り金具を外すとハンドルが上がります。



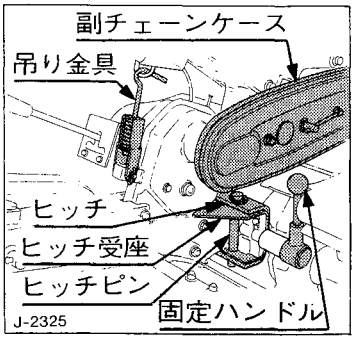
■ロータリの取付け方

❶ロータリのヒッチ受座をなるべく水平にします。

❷ロータリ吊り金具をハンドル下方に引掛け，ロータリのヒッチ受座と本機のヒッチを合せます。

❸機体を前に倒し，ヒッチとヒッチ受座の穴を合せヒッチピンを差込みβピンを入れます。

❹副チェーンケースを取付けます。

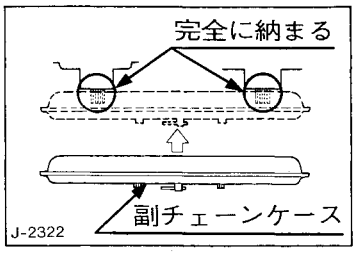


重　要

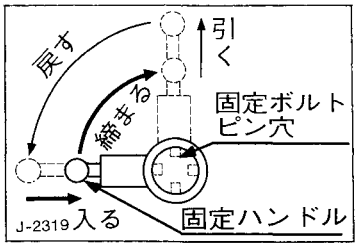
＊スプラインが合いにくいときはロータリ変速レバーを“高”か“低”に入れ，爪軸を手で回して合せてください。

＊副チェーンケースが“本機”・“ロータリ”におさまりきらないときは，ロータリケースの締付けボルトをゆるめてインローを合せてください。

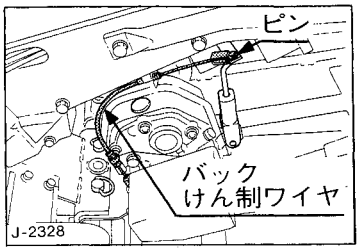
＊ロータリ変速レバーを“中立”に戻してください。



❺ロータリ固定ハンドルを締付けてください。締付け後，固定ハンドルはロータリ側に倒しておいてください。

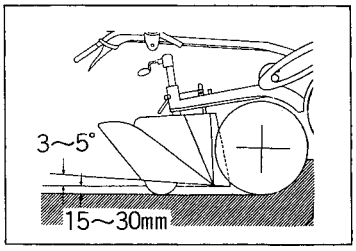


❻バックけん制ワイヤを取付けてください。



うね立機の調節

うね立て作業においてゴム車輪，大径鉄車輪などによる取付け角度，取付け位置及び高さの調節は図のとおり行なってください。



後二輪の取付け方

後輪ハンドルを左に回して後一輪を外管から抜取り，後二輪固定棒をうね立て取付け穴に取付け，後二輪の内管に差込み，後輪ハンドルを右に回して上方に上げていきます。後二輪の前方の固定棒がうね立て機取付け穴に，確実に入るように注意しながら行なってください。

こんなときどうする？　●簡単な手入れと処置

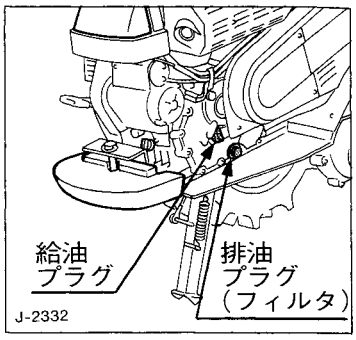
注　意

＊給排油・点検・調節・清掃中はエンジンを停止して行なってください。
＊前スタンドを立て機械を安定させて行なってください。

エンジンオイルの交換

■排油のしかた

前スタンドを立てて，給油プラグを外し，そのあと排油プラグ（オイルフィルタ）を取外し，排出してください。



■フィルタの清掃

オイルフィルタを軽油で洗浄してください。

■給油のしかた

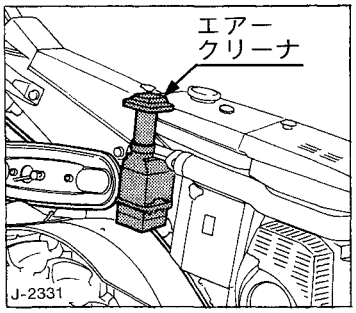
エンジンを水平になる状態にし，給油口の口元まで入れてください。

交換 第1回目	交換 以後	オイル量	オイルの種類
25時間使用後	100時間使用ごと	1.3ℓ	ディーゼルエンジンオイル クボタ純オイル(D10W-30) 又はCC級以上のオイル

夏	20℃以上	SAE30
春・秋	5～20℃	SAE20
冬	5℃以下	SAE10W又は10W-30

エアークリーナエレメントの清掃

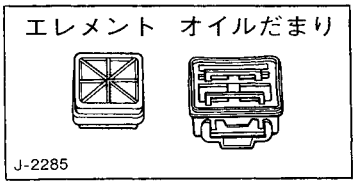
(1)エレメントを取外し，白灯油で洗い，エレメントの白灯油を振切って取付けてください。
(2)オイルだまりはよく洗浄し，新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
・規定量…OIL LEVELと記載されているところ



重　要

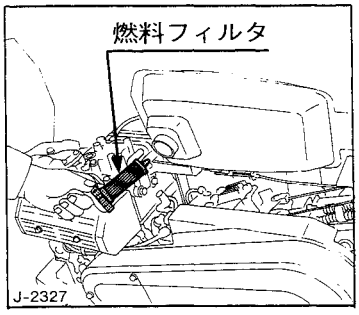
＊汚れたまま使用しますと，エンジンの出力低下や故障の原因になります。

エレメント（オイル）	清掃	通常	50時間ごと
		ホコリの多い場合	毎日
	交換	汚れがひどいとき	



燃料フィルタの清掃

(1)燃料フィルタは，良質の高級ろ紙からなっており，ごく小さいゴミもろ紙の表面に付着するので，100時間運転ごとにネジをゆるめて取外し，新しい燃料の中ですすぎ洗いしてください。
(2)燃料フィルタの取外しは，燃料タンクの燃料を全部抜きとった後行なってください。



重　要

＊燃料フィルタに穴をあけたときは，新品と取換えてください。
穴をあけたままではゴミが入り，インジェクションポンプやノズルの寿命を短くします。

100時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃

オイルクーラの清掃

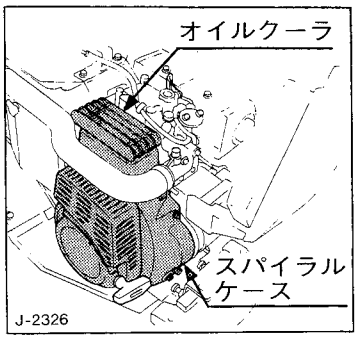
注　意

＊オイルクーラの清掃は必ずエンジンを停止して行なってください。

❶ボルト４箇所をゆるめて，スパイラルケースを取外してください。

❷シリンダフィンやオイルクーラフィンの間に，ホコリが詰まっていないか点検し，エアーガンで取除いてください。

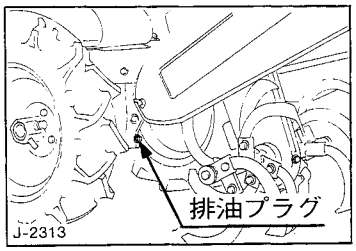
オイルクーラフィンはやわらかいので，ドライバやヘラを使うと傷めます。使わないでください。



ミッションオイルの交換

■排油のしかた

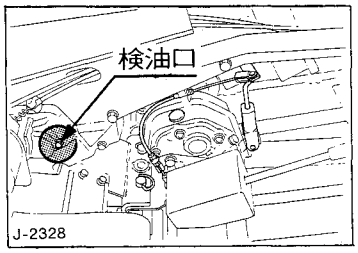
排油プラグを取外し，排油してください。

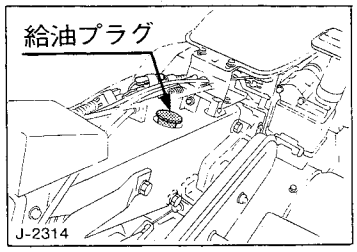


■給油のしかた

前スタンドを立てた状態で給油プラグを外し，検油口から油があふれるまで給油してください。

交換		オイル量	オイルの種類
第１回目	以後		
50時間使用後	100時間毎	6.2ℓ	クボタ純オイルM90又はM80B





主クラッチワイヤの調節

注　意

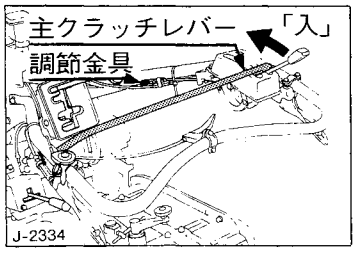
＊ベルト調節を行なう場合は，必ずエンジンを停止して行なってください。

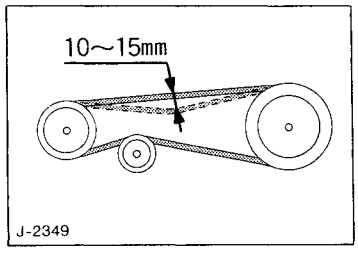
＊調節が終ったら必ずベルトカバーを取付けてください。

■クラッチワイヤによる調節

主クラッチレバーを入れた状態でベルトの中央部を指で押えて10～15㎜たわむ程度にワイヤ調節金具でテンションプーリを調節してください。

なお，使用初期はベルトが伸びやすいため，10時間使用後ワイヤを再調節してください。





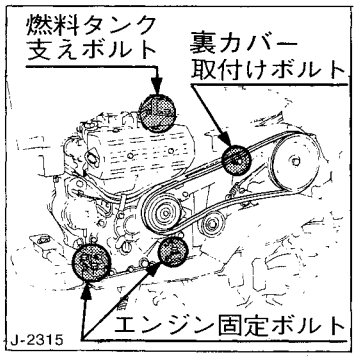
注 意

＊エンジンを始動する前に，主変速レバー・ロータリ変速レバーを中立にし，スタンドが出ていることを確認してください。

＊エンジンが回っているときは危険ですので付近に近よらないでください。

■エンジン前後による調節

ベルトが伸びたり，又は新しいベルトに取換えたとき，主クラッチワイヤで主クラッチの調節ができない場合は，エンジンを前後に移動調整します。
エンジン固定ボルト４本と，燃料タンク支えボルト・エアークリーナ支えボルト，裏カバー取付けボルトをゆるめて調節し，調節後は確実にボルトを締付けてください。

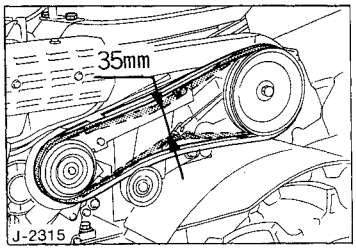


重 要

＊主クラッチワイヤを調節した場合，エンジンを始動してクラッチの“入”“切”が確実に作動するか確認してください。

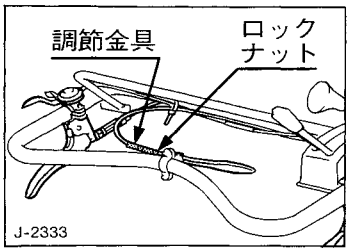
新しいベルトに交換する場合

新しいベルトに交換する場合は，ベルト中央部を指ではさんですき間を約35㎜ぐらいにして，エンジン固定ボルトを締付けてください。



駐車ブレーキの調節

ブレーキがききにくい場合は，調節金具でブレーキが確実にきくように調節します。
調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

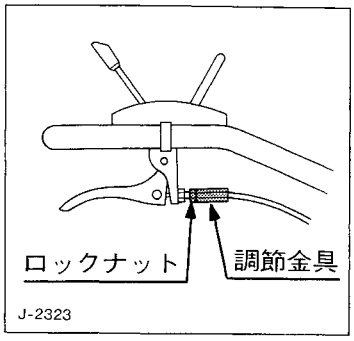


操向クラッチの調節

操向クラッチレバーを握っても操向クラッチが切れにくい場合，又操向クラッチレバーを放しても入りにくい場合は，調節金具で調節します。

操向クラッチ	調節金具
切れにくい場合	長くする
入りにくい場合	短くする

調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けてください。



タイヤ空気圧

空気圧が高すぎても低すぎても，タイヤの寿命を縮めますから，定期的に空気圧を調べ，適正になるように調節してください。

適正空気圧	1.2kg／cm^2

空気を入れるには，エアーコンプレッサ，又は自動車などのタイヤに空気を入れる高圧手押しポンプを用いてください。

バッテリ

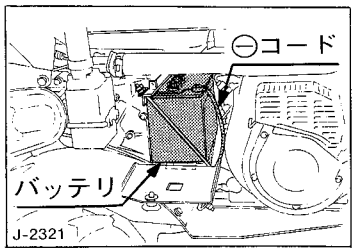
注　意

＊バッテリの点検及び取外し時にはエンジンを停止し，エンジンスイッチを“切”にしてください。

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください
（バッテリ液は希硫酸ですので，ヤケドをしたり衣服に穴が開いたりすることがあります）。
もし，身体や衣服に付いたときは，すぐ水洗いしてください。

＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

■バッテリの取付け，取外し



❶バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを外し，その後バッテリ側で⊕コードを外してください。（⊕側から外すと，工具などが接触したときにショートすることがあります。）

❷取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。

バッテリ型式	28A19L-MF（ナショナル）	容量(5HR)23Ah

重　要

＊端子の締付けは確実にしてください。又端子が錆びないよう，端子にはグリースを塗布しておいてください。
＊バッテリを再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖コードを元どおりに配線し，まわりに接触しないよう締付けてください。
＊バッテリの⊕ターミナルには，ゴムブーツを必ず取付けてください。

■電解液について

電解液が液面線中にあるか点検し，不足しているときは精製水を補充して常に規定量に保ってください。

■補充電のしかた

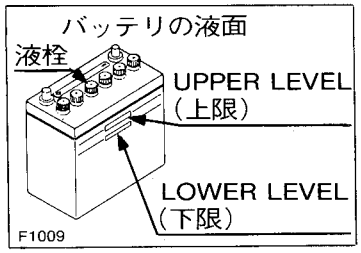
(1)バッテリの充電は必ず本体から取外して行なってください。
取付けたままで充電すると，電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。

(2)充電はバッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して行ないます。
（充電器の取扱書を十分お読みになって行なってください）
なおバッテリ充電には，充電器を販売しておりますのでご利用ください。

重　要

＊急速充電はできるだけ避けてください。
バッテリの寿命が短くなります。

■保存中の注意



(1)テーラーを長期間使用しない場合は，バッテリをテーラーから外して充電し，液面を正しく調整してから，日光の当らない乾燥したところに保存してください。

(2)バッテリは，保存中でも自己放電しますから，夏は1ヵ月に1度，冬は2ヵ月に1度補充電をしてください。

電気配線及びヒューズ

注　意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起こすので必ず点検してください。

＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

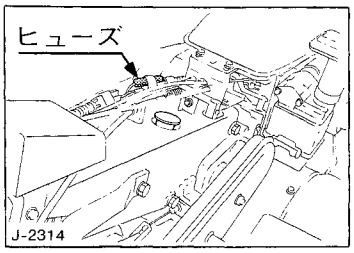
(1)配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート（短絡），漏電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。
傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

(2)ヒューズが切れると，電装関係が作動しなくなる上に，バッテリへ充電しなくなります。

■ヒューズの交換

❶ハンドルカバーを外します。

❷ワイヤハーネス部のヒューズホルダ内のヒューズを交換してください。
（規定ヒューズ：15A）

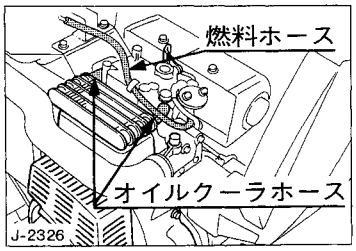


重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などを使用せず，購入先で点検を受けてください。

ゴムホースの交換

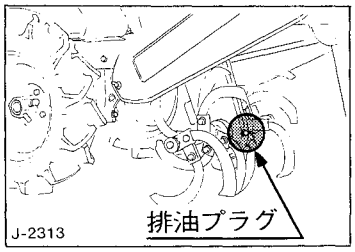
燃料ホース及びオイルクーラホースは，2年ごとに交換してください。2年以内でも点検時に漏れなどのあるときは，すぐに交換してください。



ロータリケースのオイル交換

■排油のしかた

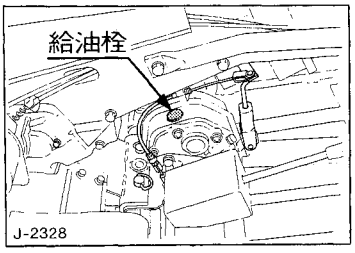
排油プラグを取外し，排油してください。

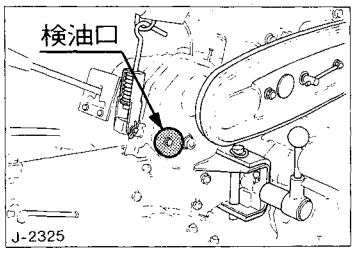


■給油のしかた

前スタンドを立てた状態で給油栓を外し，検油口から油があふれるまで給油してください。

交換		オイル量	オイルの種類
第1回目	以後		
50時間使用後	100時間毎	2.2ℓ	クボタ純オイルM90又はM80B

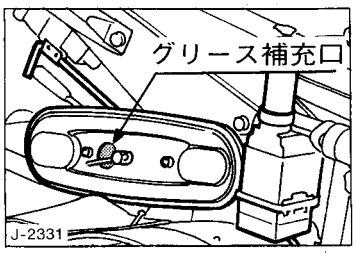




副チェーンケースのグリース補充

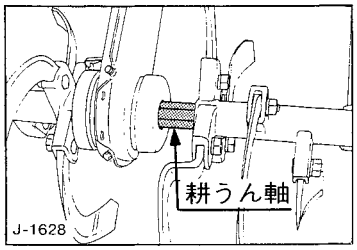
グリース補充口より良質グリースを適量補充してください。

50時間ごと	クボタチェーングリース 又は良質グリースを適量



耕うん軸へのグリース塗布

耕うん軸にグリース又はオイルを塗布しておくと，爪軸の着脱が楽になります。



バックけん制装置の調節

警　告

＊バックけん制装置の解除は行なわないこと。

注　意

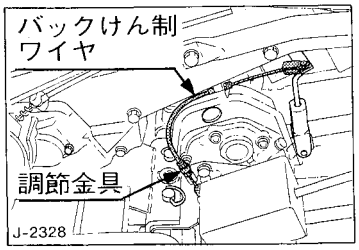
＊調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

＊調節が終ったら，主変速レバー・ロータリ変速レバーを“中立”に戻してください。

ロータリ変速と主変速（後進）に安全装置を設けてあります。

- ロータリ変速レバーが**“高速”**又は**“低速”**に入っているときは，主変速レバーは**“後進”**に入りません。
- 主変速レバーが**“後進”**に入っているときは，ロータリ変速レバーは**“高速”**又は**“低速”**に入りません。

上記の作用が不十分な場合は，バックけん制ワイヤの長さを調節してください。



現　　象	処　　置
(1)主変速レバーが**“後進”**に入っているのにロータリ変速レバーが**“高速”**又は**“低速”**に入る場合。 (2)ロータリ変速レバーが**“高速”**又は**“低速”**に入っているのに主変速レバーが**“後進”**に入る場合。	バックけん制ワイヤの調整金具を伸ばす方向に調節してください。
(1)主変速レバーが**“後進”**に入っていないのにけん制が働いてロータリ変速が入らない場合。 (2)ロータリ変速レバーが**“中立”**なのにけん制が働いて主変速レバーが**“後進”**に入らない場合。	バックけん制ワイヤの調整金具を短くする方向に調節してください。

耕うん爪の取付け方

注　意

＊耕うん爪関係の取付けはエンジン停止後行なってください。

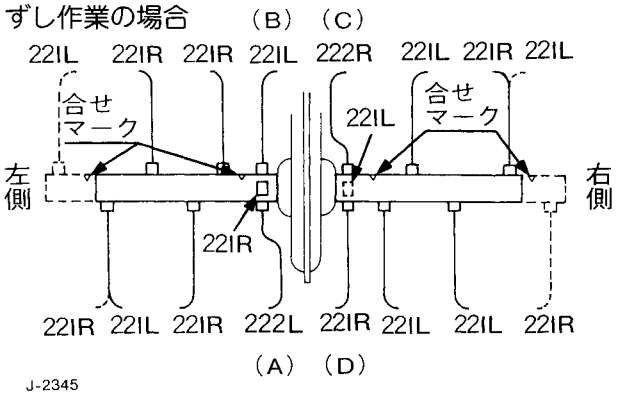
＊取外し・取付けは，平たんな場所で行なってください。

重　要

＊爪軸ブラケットと耕うん爪の番号を合せ，間違いのないように取付けてください。
＊爪軸は，左右の合せマーク(白色)が一列になるように組付けてください。
＊図中の(A)(B)(C)(D)及び(左)(右)印は爪ブラケットの刻印位置を示します。

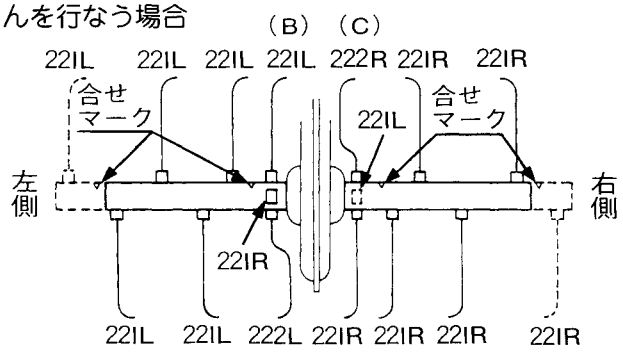
標準ロータリ

◆平面耕うん・畝立て，畝くずし作業の場合



J-2345

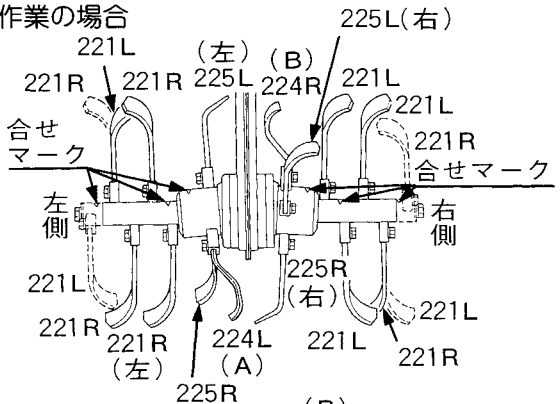
◆後二輪を使って内盛り耕うんを行なう場合



J-2346

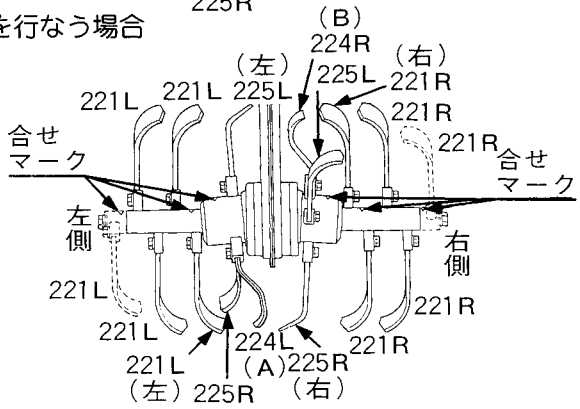
フルカットロータリ

◆平面耕うん・畝立て，畝くずし作業の場合



J-2406

◆後二輪を使って内盛り耕うんを行なう場合



J-2408

長い間使わないときは？　●長期格納時の手入れ

使用後の手入れ

(1)使用後は，必ずその日のうちに清掃を行ない，各部に付いている土やゴミを落とし，各しゅう動部はさびないよう油を塗布してください。
(2)特にファンカバー内にゴミが詰まりますと，エンジンの焼付きなどの原因になりますので，よく点検・清掃を行なってください。

保　管

使用後の清掃と同じく，
❶各部に付着している泥やゴミを水で洗い落とし，
❷各部の水分を乾いた布などで十分にぬぐい取り，
❸摩擦しゅう動部，及び塗料のはがれたところなどには，さびないように油脂を塗布してください。
(1)主クラッチレバーは**“切”**の位置にして，保管します。
(2)エンジンオイルを交換します。
(3)エアクリーナエレメントは，きれいに清掃しておきます。ゴミがこびりついて次回使用の際，清掃が困難になります。
(4)エンジンのシリンダ内に湿気が入って，始動が困難になるのを防止するため，リコイルスタータハンドルを引張って，圧縮位置で止めておきます。
(5)カバーをかけ，湿気やホコリのない場所に置いてください。
カバーはエンジンが冷えてからかけてください。
(6)バッテリのコードは，必ずアース側(⊖側)を外してください。
（始動時は忘れずに取付けてください。）

注　意

＊カバーをかけたり，納屋に格納するときは火災の危険があるため，エンジンが冷えてからにしてください。

付　記

■オプション部品

品　　番	品　　名	仕　　様	兼用機種
64441－8411－0	平プーリ	外径7.5cm　エンジン側取付	K1
64441－8412－0	平プーリ	外径９cm　エンジン側取付	K1
64441－8413－0	平プーリ	外径10cm　エンジン側取付	K1
64441－8312－0	プーリボスアッシ	エンジン側取付	K1
62301－8310－0	プーリボスアッシ	PTO(本機２軸)にスプライン取付	T702
62301－8320－0	プーリボスアッシ２	PTO(本機２軸)にスプライン取付	T702
92312－2016－2	ホイールウェイト完備	4.00－12 5.00－12　タイヤ用　30kg＋ボルト	T702
62341－5281－2 (62186－5212－0)	バランスウェイト４	８kg	T602
62341－8310－0	バランスウェイト16アッシ	ウエイト4の 上に積重ね　８kg＋ボルト(M12-55)	T602
62341－8320－0	バランスウェイト21アッシ	ウエイト4の 上に積重ね　13kg＋ボルト(M12-100)	T602
62547－8152－0	バランスウェイト１	12kg	
62821－8310－0	バランスウェイト25アッシ	ウエイト1の 上に積重ね　13kg＋ボルト(M12-85)	
62361－5282－3 (63542－5215－3)	バランスウェイト３	13kg	T702
62361－8150－0	ウェイト33完備	ウエイト1と3の 上に積重ね　８kg＋ボルト(M12-155)	T702
62361－8140－0	ウェイト38完備	ウエイト1と3の 上に積重ね　13kg＋ボルト(M12-180)	T702
62281－8331－0	丸ホイールチューブ700	φ39.3　丸穴ボス車輪用	T602 T702
62081－8334－0	六角ホイールチューブ165	全長165	T602 T702
62252－5530－3	ケイホウキアッシ	トレーラ作業用	T602 T702
62151－6163－0	バックミラー	トレーラ作業用	T602 T702
62381－5260－2	ユニバーサルヒッチアッシ	鋳物製　９°傾き	TD402
62873－3000－2	D出荷標準	延長爪軸セット(耕巾60cm)	専用
62873－3011－0	標準ロータリ装置アッシ	変速４段，耕巾54cm	専用
63733－9620－0	爪取付け部品１	爪取付け用(ボルト，ナット，座金 各１個)	T702

■主要諸元

形式			TD520	TD620	TK620
機体寸法	全長 (mm)		2050		2100
	全幅 (mm)		725		
	全高 (mm)		1130		
輪距 (mm)			390~630		
重量 (kg)	ロータリ無		170		
	標準ロータリ付		230		
	フルカットロータリ付		——	——	242
エンジン	名称		クボタOC52−T	クボタOC62−T	
	形式		液冷4サイクルディーゼルエンジン(ACTV)		
	総排気量 (cc)		254	276	
	最大出力(定格出力)/回転速度 (PS/rpm)		5.2(4.6)/1800	6.2(5.6)/1800	
	使用燃料		クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		4.5		
	始動方式		セルスタータ・リコイル		
点燈装置			20W/12V		
タイヤ	標準仕様		4.00−12	5−12	
	K仕様		5−12	——	
主クラッチ方式			ベルトテンション		
操向クラッチ方式			爪クラッチ		
制動方式			内部拡張式(駐車ブレーキ)		
変速段数	前進		8段		
	後進		4段		
	耕うん		4段(副チェーンケース入替え含む)		
PTO回転数 (rpm)			432		
ロータリ	駆動方式		センタードライブ		
	耕巾 (mm)	標準仕様	540(600オプション)		
		D仕様	540・600		

■走行速度一覧表

変速	速度 m/分(km/時)		備考
	TD520	TD520-K・TD620・TK620	
1	12.5 (0.75)	13.1 (0.79)	＊エンジンプーリ×主プーリ φ105×φ170 ＊PTO回転数……432rpm
2	18.8 (1.13)	19.7 (1.18)	
3	26.4 (1.58)	27.6 (1.66)	
4	39.7 (2.38)	41.6 (2.50)	
5	65.2 (3.91)	68.2 (4.09)	
6	98.2 (5.89)	102.8 (6.17)	
7	137.3 (8.24)	143.7 (8.62)	
8	207.0 (12.42)	216.7 (13.00)	
R1	8.3 (0.50)	8.7 (0.52)	
R2	12.6 (0.76)	13.2 (0.79)	
R3	43.5 (2.61)	45.5 (2.73)	
R4	65.5 (3.93)	68.5 (4.11)	

■爪軸回転速度・耕うんピッチ一覧表

	爪　変　速		爪軸回転数(rpm)	耕うんピッチ (cm)			
	レバー	副チェーンケース		1	2	3	4
TD520-ER タイヤ：4.00-12	低	低(14×16)	220	5.7	8.5	12	18.0
	高	低(14×16)	248	5.0	7.6	10.6	16.0
	低	高(16×14)	300	4.2	6.3	8.8	13.2
	高	高(16×14)	338	3.7	5.6	7.8	11.7
TD620-ER TD520-EKR タイヤ：5-12	低	低(14×16)	220	6.0	9.0	12.5	18.9
	高	低(14×16)	248	5.3	7.9	11.1	16.8
	低	高(16×14)	300	4.4	6.6	9.2	13.9
	高	高(16×14)	338	3.9	5.8	8.2	12.3

■標準付属品

品　名	数　量	品　名	数　量
10スパナ	1	工具袋	1
12-14スパナ	1	保証書	1
17-19スパナ	1	取扱説明書	1
ドライバ	1		

■主な消耗部品一覧表

	品　名	品　番	数量		品　名	品　番	数量
本機	Vベルト　SC51	62871-6221-0	1	標準ロータリ	オイルシール(爪軸)	62252-3244-2	2
	スロットルワイヤ	62871-4212-0	1		耕うん爪　221　左	92181-1201-0	7(延長付)
	操行クラッチワイヤ	62871-4217-0	2		耕うん爪　221　右	92181-1202-0	7(延長付)
	主クラッチワイヤ	62871-4224-0	1		耕うん爪　222　左	92181-1203-0	1
	デュアル(副変速)ワイヤ	62871-4235-0	1		耕うん爪　222　右	92181-1204-0	1
	ブレーキワイヤ	62871-4351-0	1	フルカットロータリ	フローティングシール	63313-3254-0	2
	スタンドワイヤ	62871-4312-0	1		フレキシブルシール	64441-3257-0	2
	ワイヤハーネスアッシ	62871-5513-0	1		耕うん爪　224　左	92181-1205-0	1
	オイルシール(車軸)	62281-1719-0	2		耕うん爪　224　右	92181-1206-0	1
	バッテリアッシ(28A19L-MF)	62871-5541-0	1		耕うん爪　225　左	92181-1207-0	2
	ランプバルブ　G23	62871-5422-0	1		耕うん爪　225　右	92181-1208-0	2
	管ヒューズ　15	54611-4154-0	1		耕うん爪　221　左	92181-1201-0	5(延長付)
	ヒッチピン	62151-5215-0	3		耕うん爪　221　右	92181-1202-0	5(延長付)
	スナップピン	05515-55000	3	エンジン	エアクリーナエレメントアッシ	11431-1108-0	1
	ホイールチューブピン(ℓ=66)	62131-1732-0	2		フューエルフィルタアッシ	11420-4301-0	1
	ホイールチューブピン(ℓ=78)	63733-1727-0	2		アクセルワイヤアッシ	11431-5702-0	1
	バネピン	62131-1729-0	4		ロープアッシ(リコイルスタータ)	11550-6109-0	1
					オイルパイプ1アッシ	11420-3715-0	1
					オイルパイプ2アッシ	11420-3717-0	1

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番 62871－6621－1

Kubota